

議長	副議長	局長	次長	書記
[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]

(様式 1)

香美市議会議長 比与森 光俊 様



令和元年 9月 2日

会派名 日本共産党
代表者氏名 大岸 真弓



調査研究費等報告書

下記のとおり実施しましたので届け出ます。

記

1. 目程

- 令和元年 8月 20日

2. 場所

- 香美市市役所 5階 委員会室 3

3. 目的

- 協働・参画の実践を学ぶ

4. 該当する政務活動費の使途項目

- 研修費

5. 支出経費（内訳は裏面記載）

- 5000円

6. 参加議員名

- 大岸真弓・笛岡優・山崎龍太郎・浜田百合子・森田雄介

7. 広報成果の概要、所見

- 別紙添付

8. 成果物、資料等

- 別紙添付

(裏面)

支出経費の内訳と金額

区分			金額
交通費	鉄道	自至	往復
	船	自至	往復
	航空	自至	往復名
	バス・タクシ一代	自至	往復
	借上料	自至	往復
宿泊費			
参加費			
駐車場代			
資料印刷費			
会場費			
講師謝金	謝礼金		5000円
	鉄道	自至	往復
	船	自至	往復
	航空	自至	往復
	バス・タクシ一代	自至	往復
	宿泊		
	食事代		
	借上料		
合計			5000円
(特記事項)			

研修内容の概要、所見

● 2019年8月20日

県立大学 清原 泰治教授を講師に迎えた学習、意見交換について

高知県立大学の地域教育研究センター長であり、佐川町を始め県・市町村の審議会委員などを多く務めている清原泰治教授に来ていただき、協働参画の実践を始め、進め方にアドバイスをいただいた。

なお、今回の依頼を進めた背景には、地域との関わりをどう進めていったらいいのかの疑問に対して、平山地域での廃校を利用した地域活性化を始め、本市との関わりを多く持ってくれている点から、同教授に講義を依頼したという流れがあったことを付記しておく。

まず、なぜ平山地域だったのかという点に関しては、たまたま別の用事で平山地域を訪れた時に廃校となった平山小学校を見て、これを何かに活用しなければならないと強く思ったことがきっかけだったという。以後、地元や香美市行政との打ち合わせののち、ゼミ生が地域に入って要望や課題のお手伝いをするという活動がスタートする。その内容はパワーポイント資料に詳しい。

この平山地域での活動が成功していった背景にどんな普遍性があるのかを検証したい。4点を挙げている。

1. 地域活動を推進する組織が存在していた
2. 小さな子供がいる世帯がいた
3. 受け入れのキーマンとなる人物がいた
4. 「よそ者」「若者」を受け入れるのに地域の皆様の心理的な抵抗が少なかった。

これらは活動を始める前から見通せていたものではなく、あくまで振り返って見た時に重要な点である。

新しく地域に入った時「もっと早く来てくれたらよかったが、もう今更どうにも・・・」という声は必ず聞かれる。そこをどう変えていくかは大変難しい。しかし今いる人から始めないと何も変えられない。取り組みを進めることで、よそ者、若者、大学を地域が受け入れて協働していく力が地域についていき、学生も教室にとどまらない学びの場を得て大きく成長していく。

※質疑から

- ✧ 地域によって成功の形は違う。平山地域は学生が入った時「何も困っていない」という意識が大半だった。しかし、10年先、20年先をどうしようかとの話はなく、そこからわかるることは困ったことを掘り出さないと出てこないということ。そのままでは「もう今更・・・」の未来が待ち受けていたかも知れない。
- ✧ 組織の作り方はある程度セオリーがあるが、キーマンの作り方は見えてこない。お互いの意見を出し合う場を作り、情報を共有、佐川で取り組んでいる表彰制度など、取り組みと運営する組織を作り、それを続けるしかないかと思っている。
- ✧ 情報は集約化が大事だと思う。HPはまだ皆が見にいく所にはなっていない。何かに取り組んでいる団体同士が情報を共有する方法として、「チームさかわの日」がある。
- ✧ 条例や広報で出た協働参画の記事では、何をしたらいいのか伝わらない。どちらかというと、こんな事例がある、ボトルネック（課題）になっている部分がある、そういうしたものの方が行動につながる。
- ✧ 何かを始めようという時、ちょっとした予算があると大きく違う。汗をかこうとする人がいるうちに取り組む。今からやらないと後手に回るだけ。

領 収 書

香美市議会 日本共産党代表 大岸 真弓 様

金 5,000円也

ただし、協働・参画調査研究特別委員会講師 お車代 として

令和元年8月20日 上記のとおり領収いたしました。

高知市永国寺町2番22号

高知県立大学地域教育研究センター長

清原 泰治